

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2025春 No.125



地域の伝統行事を見直そう!

今年度の財団賞に輝いた坂出市の櫃石島に伝わる伝統行事。ももて祭りが、今年も無事に開催された。瀬戸内の島々は、古来より最先端の文化が伝わった所なので、それぞれの歴史はかなり古い。現代の高齢化社会で島の人口は減る一方かもしれないが、こうした島の行事が今後とも永く残って行って欲しいと願ってやまない。(関連記事4頁)

- 茶室 de 若人茶会 大手前丸亀・高松中学高等学校茶道部
- 櫃石島のももて祭
- 鎌倉芳太郎の偉業 讃岐三木町と沖縄那覇の深い関係——
- 3月から5月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2025年春号 No.125 3月1日発行(季刊)

茶室 de 若人茶会

とき 令和6年12月8日(日)

立礼席 大手前丸亀中学・高校茶道部

大

手前丸亀中学高等学校は、今回初めてお茶会に参加させていただきました。私達茶道部は、月二回の少ない練習で、茶道は初めての生徒が多い中、どうしたらいいのか、本番でうまくお点前をすることができののだろうかという不安を抱えながら当日を迎えました。実際にお客さんの前でお点前をすると頭が真っ白になり手が止まってしまいうこともありましたが、お客さんが暖かく見守ってくださいたり、優しく声をかけてくださる方もいらつしゃって安心することができました。

今回のお席のテーマはクリスマスです、お道具も普段とは違うクリスマス仕様にし、大手前丸亀中学高等学校を卒業された星野志穂さんが書かれた【基督弥撒】



というお軸が床を飾りました。なぜこれをクリスマスと読むのか皆さん色々と考えていらして、謎解きのように楽しんでる姿が印象的でした。調べてみると、「基督」はキリスト、「弥撒」はミサを意味し、組み合わせると「基督弥撒」

キリストのミサとなります。ミサは、ローマ・カトリック教会で行われる儀式で、神を賛美し、罪のあがないを願ひ、恵みを祈るものです。クリスマスというのは、サンタクロースがプレゼントをくれる日だと思っていました。が、「基督弥撒」と書してみるとキリストが生まれた事を祝う日だということが分かります、そんな文字から多くを読み取れるお軸の凄さにも気付かされました。お菓子は、普段のお稽古で使用している赤い無地のものに生徒がサンタクロースなどのシールを飾り付けたものを使用しました。お客さんには「初めからこんなデザインだと思った。おもしろい！」などと言って頂けて大変嬉しかったです。お道具の大半が普段練習しているお道具とは違い洋風の食器などをみためたおもしろいものでしたが、お点前をする

ことには多くの生徒が苦戦しました。しかし、その場で起こった問題にも臨機応変に対応することができ、生徒自身の成長に繋がりました。今回のお茶会で、生徒

一人ひとりに自信が付き成長することができたと思っています。参考に、初めてお点前をする生徒に感想を聞いてみると、「人前でお点前するのは緊張し、失敗もあつたがお客さんが暖かく受け入れてくださりとてもいい経験になった。」

「初めて和三盆を作り挑戦し、教えてもらっていざ作ろうとする案外難しく、うまく作れたと思っても崩れてしまい、プロの方はもつと難しいものを作っていると思うと日本の職人さんの技術は素晴らしいなと改めて思った。」

「半東をして、お点前さんが何をしているかを確認しながらお客さんと会話をし、わからないことを質問されると、上手く臨機応変に対応するということが難しかった。」

「初めてお点前をしてみても最初は緊張していたが、お客さんが暖かく見守ってくださったおかげで緊張もほぐけて上手にお点前をすることができた。」

「とてもいい経験になったし、今回のお茶会で茶道に対してさらに関心が深まった。」と、それぞれに気づきや発見があったようです。大変良い経験になり、茶道初体験の部員達ですが、茶道に対して興味深まった事に私も大変嬉しく思いました。

現在大手前丸亀中学高等学校の茶道部には男女計二十五名が入部しており、茶道部に入ろうと思つたきっかけを問いかけてみると、「美味しそうなお菓子が食べられるから、お抹茶が飲めるから。」



と単純な理由でしたがその少しの興味から茶道の深い世界に気付いてもらえればいいなと思います。

私は茶道を習い始めて八年ほど立ちますが、基礎を大切に動作を丁寧にすることを意識し、新たな学びを増やしている最中です。これからはお点前だけでなく茶道の歴史についても勉強し、深く長く茶道にひたむきに取り組んでいきたいと思っております。

また、大手前丸亀中学高等学校茶道部のみならず共にお茶会を開催できるところを楽しみにしております。

大手前丸亀中学高等学校の目の前には丸亀城という素晴らしい文化財があり多くの人が訪れます。これを機にいつか私達もお城で人をもてなすお茶会を開催することができるようこれからも部員たちで切磋琢磨しながら稽古に励んでいきます。

大手前丸亀高校 2年 高橋木乃香

晴松亭 大手前高松中学・高校茶道部

茶

道部に入部して5年が経ちました。色々なお茶会に参加しましたが今回初めての試みとして丸亀中学・高等学校の部員との合同茶会を行いました。それに伴い、当日は初めての役割を担う部員も多くなりました。作法に集中するとお客様との会話を上手く繋げることができなかつた場面もありましたが、中條様に助け船を出して頂き、和やかな雰囲気のお席にできたように思います。

今回私は中條財団の方との連絡やお茶会のテーマ決め、部員のシフト作りなどに裏方を担当しました。この経験から今までとは違う視点でお茶会を捉えることができ、茶会全体を俯瞰した反省点と



改善点を見つけることが出来ました。部員一人一人が感じたことを踏まえて今後のお稽古に精進していきたいと思っています。

このような場を提供してくださった中條財団の方々、お稽古をつけてくださる中浦先生、多田先生、部活顧問の先生方、心より感謝申し上げます。 林万葉

今

初めのお茶会は、大手前丸亀校との初めての合同茶会という事で緊張していましたが、いざ振り返ってみると、前日の準備からお茶会が終わってしまいうまでがあつという間で、とても楽しく、また多くの学びを得ることができた貴重な機会となりました。

初めての役割を担当する部員が多い中、皆、日頃のお稽古を思い出し、精一杯つとめあげることができたように思います。参加した家族や友人、そして、お茶の先生方からもとても良いお席でしたと喜んでいただき、嬉しく感じています。これからも、日々のお稽古を部員一丸となつて精進して参ります。 西岡美音

今

回は初めて亭主をつとめさせて頂きました。本来はお客様にお道具を詳しくご説明するべきでしたが、とても緊張してしまい、話を円滑に進めることができなかった場面がありました。来てくださったお客様に対してしっかりとおもてなしが出来ていないと感じ、亭主の難しさを実感しました。次回のお茶会

では亭主がしっかりと務まるようにお稽古に励みたいと思います。温かく接してくださったお客様には感謝申し上げます。

しかし、今回の経験を通して、多くのことに気付くことができたと感じています。お手前から見るお茶会、半東から見るお茶会、亭主から見るお茶会でそれぞれ雰囲気が変わっており、緊張感がありながらも、とても新鮮な気持ちでお茶会に参加することができました。更にスキルアップするために、細やかに気を配り、所作に気を付けてお稽古に取り組んでいきたいと考えています。 岡林かなみ

初

めての亭主だったということもあり、至らない点がとても多く感じましたが、楽しくお茶会をすることができました。今回のお茶会の反省点は、緊張してしまい、来てくださったお客様とのコミュニケーションがしっかりと取れなかつた点です。お茶のお道具について説明することに必死になってしまい、お客様の質問に



答えたり、一緒にお話ししたりすることがスムーズにできなかったところが反省点だと感じています。

よかつた点は、お茶会を通して、たくさんの方々と交流できたことです。今まで知らなかつたお茶の歴史のことやお道具の歴史、作者の歴史などをお客様に教えていただきました。たくさんの方々のことを学ぶことができ大変貴重な時間となりました。

次回のお茶会は、今回の反省点を活かし、お客様に満足していただけるお茶会にしたいと思っています。そのために、普段からの練習や所作を見直し、茶道部員としてお手本になれるように頑張ります。

藤田そら





寄稿

櫃石島のももて祭 ひっいしじま (香川県指定無形民俗文化財)

櫃石ももて祭保存会 会長 細谷柳太

坂出から瀬戸大橋で本州方面へ向かいますと、橋脚がかかっている有人の島、パーキングのある与島、岩黒島、そして本州に一番近い島、櫃石島があります。人口は130人ほどの小さな島ですが、歴史は思いのほか古く、瀬戸大橋架橋工事の時の発掘調査では、矢じり、土器、奈良三彩等、その他多数の古代遺物が出てきたそうです。

小さなものですが古墳もありました。そのような櫃石島で500年前から伝わっているといわれている王子神社で、催されているももて祭という行事があります。皆様にその行事をご紹介します。

ももて祭とは、的に向かって矢を射、大漁、五穀豊穰、島内安全等と、祈願し、一年、平穏に暮らせませます様願うお祭りです。

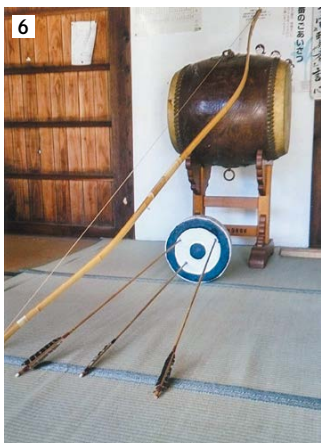
矢を射る射手の人は11人。(写真1)お宮の本殿を背にし20メートル位の所にある的に矢を放ちますが的に向かって右端の人が一番経験豊富な人で大前といいますが、左端の人は関といっています。一番経験の浅い人が中心におりまして中なかといいます。

行事が始まる前日に射手が合議で決め

るようです。的は地元でよし竹とよばれる竹を一人が11本ずつ切って祭りの前日に作ります。竹を木づちで打って割れた状態にし、写真の様に交互に編んでいきます。(写真2)的の大きさは弓のいつばいの長さで測り対角線を決め、それが内径になります。できあがると写真のような形に整え、和紙を張り、墨で黒い丸印をつけますが、数えると33個あります。これは神様の数だそうです。(写真3)真ん中の大きな丸が天照皇大神だそうです。この的に射る矢はズンドウ矢といまして山でとってきた竹と松の木の若木で失じりを作ります。(写真4)袴と袴で凍々しく身を整えた島内の若者が射手となり行事が始まります。

以前は行事が始まる日の早朝、海に入り身を清めて行事に参加したと聞いております。昭和40年代頃迄は総代長さんの家でお風呂に入って、装束をつけておりました。

さて、総代長の「ようござる」の声で行事が始まりますが、射手の並び方は矢に向かって大前さんが本殿近くから関さん迄45度くらい斜めに並んでいます。所作は小笠原古流と伝えられています。足



を突っ張って少し前かがみになっているのは舟の上で矢を射る為だというようなことも聞きました。

まず王子御神を五手、次に三玉御神、つづいて十の神、最後に天地大小の神と打ちます。総代長が王子御神と大声で告げますと、二本ずつの矢をもらった射手の人は大前さんから順に王子御神と大声で祈りをこめて的に矢を放ちます。最後が関という順です。矢を射る合間合間に、お神酒と料理がでてきます。

料理は決まっております。配膳は両端から順次最後が中、となります。膳を引くときは中一番新人の位置から引き揚げるそうです。

さて神々への祈願が滞りなく終わりますと、島内の人々の祈願です。

厄除け、家内安全、大漁祈願等の的打ちが終わりますと、大的は焚火の中で燃やします。(写真5)その煙を浴びると風邪をひかないとか子供の時は頭が良くなるとか言われていました。家にある古いお札や正月のお飾りなど持ってきてきて焼く人もおります。年初めの島の人々の一年が始まるにぎやかな祭りです。

昼食をはさんで午後は的と矢を変えて行事の再開になります。直径30センチメートルの中心に黒の丸印のある小的です。矢は矢羽根がついたものです。射手の人は皆さん真剣そのものでの的の中心をめがけて矢を放ちます。三位までの人には賞金が出ます。一位は御福神といいますが。(写真6)本人たちも見物人もなかなか



力が入る場面です。古老達が〇〇よ腰がふらついたりぞーミミズ堀りじゃ(矢が地面を掘る)とか、場が一番盛り上がる場面です。

日が西に傾くころ全ての行事は終わり射手の人は拝殿にて神事の後下駄を履き弓矢を持って「のうまくさんまんだぼだ・」不動明王真言を唱えながら集落を巡り一切の行事が終了となります。

島の人が一つにまとまって再開できたことは、市、県、その他有志の方々応援をいただいで本年はもって祭が再開できたことに感謝申し上げます。

(文・櫃石自治会長 池田勉)

鎌倉芳太郎の偉業

讃岐三木町と沖縄那覇の深い関係

去る1月31日。沖縄の首里城の麓にある県立沖縄芸術大学の校内に鎌倉芳太郎先生の偉業を讃える石碑の除幕式がありました。

2010年に三木町の山大寺池堤防に鎌倉芳太郎顕彰碑が、同顕彰会(会長・佃昌道高松大学学長)によって建てられました。この除幕式で、これを沖縄にも作りたくと呟かれた波照間永吉氏(同沖縄顕彰会会長)の言葉に端を発して、今回の沖縄にも顕彰碑を建てるプロジェクトが始まりました。

鎌倉芳太郎は、三木町出身の型絵染め作家で人間国宝として有名な方でした。しかし、もうひとつの顔は「首里城を3度救った男」として沖縄県民に広く知られ感謝されている方でもあります。

1921年(大正10年)23歳の春。鎌倉芳太郎は、東京美術学校の図画師範科を卒業と同時に、沖縄県女子師範学校・沖縄県立高等女学校に赴任しました。ここから、かねてより興味を持っていた琉球の文化の研究が始まりました。赴任した時は、まだ首里城が現存していた時代です。かつて琉球王朝の高官をしていたという座間見家に下宿して、琉球の文化

に地元目線に近い感じで触れる機会を得て、さらに首里言葉もマスターしたそうです。

2年の任期を終えて東京に戻ると、母校の研究科(美術史研究室)に入学し、「琉球調査研究資料」を報告したこと

がきっかけとなって、東京帝国大学の伊東忠太教授の指導を受けるようになりました。伊東教授は、当時の日本建築界の重鎮で、その後の「琉球芸術調査事業」を共同研究という形で支援してくれました。また、その準備として写真術を短期間に習得しました。

しかし、その出発の直前に首里城正殿が取り壊されるという知らせを聞き、急いで伊東教授に報告。首里城の調査を予定していた教授は、すぐさま内務省に赴

いて、なんとか土壇場で回避されることとなったそうです。

1924年(大正13年)第1回琉球芸術調査事業が1年間の予定で始まりしました。芳太郎は、美術工芸部門に担当しました。沖縄では、首里城を救った人として知られ、調査は順調に進みました。琉球王朝ゆかりの尚家を始め、首里、那覇周辺の名家を巡り、様々な工芸品を記録・撮影しました。

また、すでに途絶えつつあった琉球王朝御用の紅型技法の聞き取り記録をはじめ、紅型紺屋から買い取った数千点に及び裂地や型紙、陶器や漆器、絵画や彫刻まで収集しました。さらに撮影された記録写真は1500点以上にも及びました。その中には、王家ゆかりの者以外は目に触れることができない、御後絵の撮影も許されたそうです。

また、1926年には第2回目の調査が始まり、今回は王府文書の調査を中心に貴重な資料の模写や撮影が時間をかけて行われました。また、調査は離島地域にも足を運び、それぞれに根付く風習や祭事などについても記録していききました。こうした調査は1927年(昭和2年)まで続き、鎌倉芳太郎は沖縄文化研究の第一人者となりました。



当時沖縄には琉球王朝ゆかりの文化遺産がまだ数多く残っていました。しかし、1945年の沖縄戦において激しい地上戦に見舞われ、首里城をはじめ、そのほとんどが失われてしまいました。

一方、芳太郎が持ち帰った膨大な資料は、戦争中は防空壕に保管され戦災を免れていました。そして今では「鎌倉資料」の名前で沖縄県立芸術大学の芸術資料館に収蔵され重要文化財に指定されています。ガラス乾板や調査ノートを筆頭に7512点。そして、今でも沖縄の文化芸術の復興に大きく寄与しているそうです。

平成の首里城復元や現在進行中の令和の復元においても欠かす事のできない重要な資料となっています。来年には完成する予定の首里城ですが、機会がありましたらぜひ訪ねて下さい。芸大に出来た記念碑からも首里城を見ることが出来ます。

源内さんも驚く焼き菓子はいかが

大河ドラマ『べらぼう』に出てくる平賀源内。エレキテルを発明したことで有名な江戸時代中頃の人物で、さぬき市志度で生まれたのはご存知ですね？本草家、戯作者、鉾山開発者、発明家など、先進的なアイデアを次々と思い浮かべては、その実現のため日本各地を巡り、成功と失敗を繰り返していたようです。子供の頃発明したからくり絵の“お神酒天神”は掛け軸の紐を引っ張ると大臣の顔が白から真っ赤に変わるという11歳が考えたとは思えない仕掛けでした。

源内が挑戦した物の中に焼き物があります。その名も「源内焼」。軟質の施釉陶器で、緑、褐、黄などの鮮やかな釉色が特徴で、精緻な文様はすべて型を使って表され、世界地図、

日本地図、欧米文字などの斬新な意匠が見られます。

そんな源内焼の特徴である緑・黄色・褐色を抹茶とアーモンド生地のグラデーションで再現した焦がし発酵バターと抹茶の香りが一緒に楽しめるマーブル模様のフィナンシェ『源内ロマン』。日本茶や紅茶によく合うお菓子です。



お茶の風景(27)

桃・二題

少しややこしい表現ですが、桃かと思いきや椿、はたまた、果実にあらずして花という話があります。古代中国・漢の武帝に西王母が与えた三千年に一度という仙果の桃をイメージして名付けられた椿・西王母。晩秋から春にかけてほんのり紅を含んで咲く花は主客の吉祥を願って茶席の床を飾ってきました。



しかし、桃といえば桃太郎。むかし、むかしあるところに…で始まる昔噺は室町時代の御伽草子が各地の風土に脚色されながら流布されたものですが、讃岐では昭和初期に橋本仙太郎氏が孝霊天皇の皇子・稚武彦命を桃太郎に見立て、姉の讃岐一宮神社祭神である倭迹々日百襲姫を訪ねた折に、住民を困らせていた鬼を鬼ヶ島に攻め入って退治し、鬼が無くなった里・鬼無と大団円に結び、女木島の大洞窟や鬼無町近辺の地名を物語と巧みに符合させ、讃岐こそ桃太郎発祥の地だと発表しました。以来、メルヘンの島は幼子たちの夢を今に語り続けます。

おいでまい香川

香川県内の様々なイベント情報を随時更新中! <https://oidemai.kagawa.jp/>



財団行事予定 (3月~5月)

休館日水曜日

お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

3月

- ◆ 懐古講座 三友居 山本勝先生
3月4日(火) 午前11時
- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日
森本義人先生
3月7日(金)・21日(金) 午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
3月8日(土)・22日(土) 午後1時~
- ◆ 和菓子講座
毎月第2金曜日 高橋初乃先生
3月14日(金) 午前10時~12時
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
3月18日(火) 午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)

4月

- ◆ 懐古講座 三友居 山本勝先生
4月1日(火) 午前11時

- ◆ 書道教室 森本義人先生
4月4日(金)・18日(金) 午前10時~12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
4月11日(金) 午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
4月12日(土)・26日(土) 午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室
4月15日(火) 午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)
- ◆ 茶室 de 若人茶会
4月20日(日)
処 晴松亭(当財団茶室)
席主 高松商業高校茶道部
会費 一般700円・学生300円
入席時間(各席20名)
第1席 9時30分 第2席 10時30分
第3席 11時30分 第4席 12時30分
第5席 13時30分 第6席 14時30分

5月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
5月2日(金)・16日(金) 午前10時~12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
5月9日(金) 午前10時~12時

- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
5月10日(土)・24日(土) 午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室
5月20日(火) 午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)
- ◆ 5月月釜 五人様茶会
「若葉青葉を渡る風のすがすがしさが
だせればと思います」と席主のメッセージを添えてご案内いたします。
日時 5月25日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
濃茶 裏千家 仁信宗和
薄茶 裏千家 氏家宗鶴
会費 10,000円(濃茶・薄茶・点心席)
入席時間(各席6名・2時間15分を予定)
第1席 9時 第2席 10時30分
第3席 11時15分 第4席 12時45分
(各席A席・B席)
申込 電話受付 4月14日(月) 10時~

3月から「月に一度の喫茶室」の参加会費、ランチの提供を変更いたします。詳細は最終ページをご覧ください。

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

5/11 東讃四季茶会 席主:多田羅宗悠
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00~15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL (0877) 62-4155

4/29 瀬戸大橋展望茶会 席主:坂出分会
坂出番の州公園刻月亭 500円 10:00~14:00

4/29 若葉茶会 席主:観音寺教授者
琴平公園浴日館 無料 9:00~14:00

5/4 お城まつり協賛茶会 席主:齊藤宗光
丸亀生涯学習センター2F 600円 9:30~15:00

5/18 パラ園茶会 席主:坂出分会
坂出番の州公園5番地 300円 10:00~14:00

〈淡交会香川支部月釜〉
3/2 席主:村井宗美
多度津町地域交流センター2F 600円 9:30~15:00

4/6 席主:宮武宗美 翠松閣 600円 9:30~12:30

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

〈淡交会高松支部月釜〉 大西・アオイ記念館

4/6 席主:大社宗衣 1,000円 9:30~15:00(時間指定)

6/1 席主:鈴木宗浩 1,000円 9:30~15:00(時間指定)

石州流讃岐清水派石州会 TEL 090-2826-9229

3/30 創立88周年記念茶会
席主:小河宗江・中浦宗志・藤嶋宗季
玉藻公園披雲閣 1,000円 9:00~15:00

煎茶道三癸亭賣茶流高松仙友会 TEL (087) 898-3655

5/25 三癸亭賣茶流高松仙友会煎茶会(二席)
席主:木村千鶴栄(蘇鉄の間)・鶴尾明美(槇の間)
玉藻城披雲閣 2,000円 9:00~14:00(最終受付)

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

4/13 観桜茶会 武者小路千家 席主:長町妙千
与田寺 1,000円 9:00~15:00

〈香川官休会月釜〉 無量寿院 1,000円 9:00~15:00

3/16 席主:霜妙眞

5/4 席主:牛熊圭介

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

3/2 弥生茶会(高松商工会議所女性会) 席主:美澤宗包
大西・アオイ記念館 9:00~

5/18 国際ソロプチミスト高松チャリティー茶会 4,000円
席主:馬場宗久 大西・アオイ記念館 9:30~

〈大西・アオイ高校茶会〉 大西・アオイ記念館 400円

3/22 席主:高松桜井高校茶華道部 9:30~

3/30 席主:三木高校茶華道部 10:00~

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

〈由佐城月釜茶会〉 第2研修室(和室) 9:30~14:30(全6席)
前売700円・当日800円/4月から前売800円・当日900円

3/16 席主:三好宇太郎(武者小路千家)

4/20 席主:岩倉宗陸・岡宗扶(裏千家)

5/18 席主:塩入宗知(茶道石州流宗家高松会)

● 財団からのお知らせ

中條文化振興財団

🍵 「月に一度の喫茶室」の変更について

お茶の関係者はもちろん、もっとたくさんの人に財団のお茶室を気軽に体験していただきたいと始まった「月に一度の喫茶室」は、早いもので23年が過ぎました。

当初は、財団の役員による茶の湯委員会が中心となり、美藻庵の濃茶席と立礼の薄茶席を担当し、広間の待合では、珈琲や紅茶、中国茶などセルフで召し上がって頂き、ケータリングによるランチもご用意いたしました。

しかし、このところの社会情勢の大きな変化の中で、ケータリングを継続することが難しくなってきました。

そこで、今後も継続していくために、3月の喫茶室より、下記のように内容を変更させていただく事に致しました。

① 参加会費

一般・1,500円 晴友会会員・1,000円

② 季節の特製弁当の販売(予約制)

ゆっくりしていただけるように、ご希望の方には季節のお弁当をご用意いたします。お申込は第2火曜日まで。3月は、粋香さんのお弁当です。

暫定的ではございますが、今までと変わらずじっくりお過ごしください。

編集後記

東かがわ市出身の笠置シズ子さんが主人公の連続ドラマの放映がまだ記憶に残っているうちに、今度はさぬき市出身の平賀源内さんが登場するドラマがあり、県人としてともうれしくなりました。では、他にどのような県出身の方々がいらっしゃるのか興味を覚え、県出身の人物一覧を検索してみました。すると、政治・経済・文化・学問・技術・工芸・作家・映画・音楽・メディア・マスコミ等、膨大な数の名前が出てきました。全ての方のプロフィールを見るのは不可能ですが、読んで見たくまりました。その中から新しい気付きが見つければ良いなと願っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017
高松市番町二丁目一十二
公益財団法人 中條文化振興財団 編集部
TEL (087) 826-1335
FAX (087) 826-1221
info@chujo-zaidan.or.jp